

低酸素濃度下での黒雲母溶解における Fe の挙動

The mobility of iron during anoxic dissolution of biotite.

伊藤 順一[1], 香西 直文[2], 大貫 敏彦[3], 村上 隆[1]

Junichi Itoh[1], Naofumi Kozai[2], Toshihiko Ohnuki[3], Takashi Murakami[4]

[1] 東大・理・鉱物, [2] 原研・環境科学・陸域環境, [3] 原研・地質研

[1] Miner Inst., Univ of Tokyo, [2] Environ. Sci., JAERI, [3] EGL, JAERI, [4] Mineralogical Inst., Univ. of Tokyo

Precambrian の鉄の挙動と現在の鉄の挙動は異なるものと考えられるが、今もって、Precambrian の鉄の挙動については結論に達していない。そこで、低酸素濃度（酸素濃度 1ppm 以下）のグローブボックス内で biotite を溶解させ、鉄の挙動について調べることにした。実験後の溶液の分析から鉄は酸化的な溶解実験に比べて多く存在していることが確認できた。また、SEM 観察から biotite の端面には Fe-mineral が析出していることが確認できた。